

令和6年度 第3回 学校運営協議会（議事録）

記録：矢野

1. 日時 令和7年1月24日（金）16時30分～17時30分（

2. 会場 大阪府立三国丘高等学校 校長室

3. 出席者：

〔委員〕田中満公子会長、仲林信至副会長、河野泰之委員 田村啓委員、（吉岡哲郎委員：ご欠席）

〔学校側〕藤井光正校長、田中和代教頭、中島泰志事務部長、大塚雅之首席、渡部英輝首席、
宮根隆教諭、北川晃士教諭、辻本幸美教諭、神宅浩司教諭、中屋江里子教諭、岡晶教諭、
矢野朋花教諭

4. 次第

① 校長挨拶

本日は南極授業があり開催時刻が遅くなり申し訳ありません。

今回は最終回ということで今年度のまとめになるかと思います。よろしくお願いいたします。

② 議事

（1）令和6年度学校評価及び令和7年度学校経営計画について

【学校】表面は全体、裏面は個別の評価になっている。おおむね○の評価になっているので、ここでは△の項目について説明させていただく。

「超過勤務時間について」は、昨年度は GLHS10 校の中でも最短の結果で、働き方改革の進んだ学校と評価をもらった。今年度は昨年度に比べ平均で約2時間超過したが、GLHS10 校の中では最短であった。

生徒による評価についてはこの5年間の中で肯定的な評価が最も多く、経年変化を見たところ、「満足できる授業が多い。」が過去10年で最高値だった。「人権学習」についても、今年度は内容がわかりやすかったとの感想が多く、20%ほど評価が上がった。

保護者による評価は例年通り「入学させて良かった。」という意見を多くもらっている。

教職員による評価からわかることは、授業における ICT 機器活用率の向上である。授業でプロジェクターを使うことが当たり前になってきたことがわかる。

進路指導に関する評価はここ数年で最高値である。進路指導部や学年の取組が高評価に繋がっている。一方で、読書の習慣が著しく減っている。読書習慣は論理的思考にも影響することから憂慮している。

【委員】受験に注力（或いは偏向）した授業をすべきか、それ以外の学習も重視した授業をすべきか、拮抗していてもおかしくないと思うが学校的にはどう考えているのか。

【学校】生徒のニーズに合致した授業をするのが基本的な考え方だが、志願率や大学進学状況などの様々なデータを都度みながら考えることになる。例えば、五大学の進学実績が落ちてきたら、受験を重視した授業にしなければならない、などの方向性の変化もでてくるだろう。

- 【委員】保護者は SGH、SSH で何をしているのかよく分かっていない。生徒からの報告のみではなく学校からのアピールの動画などがあれば保護者のアンケート結果が変わってくるかもしれない。
- 【委員】先生や生徒など広く撮った動画などを集め、保護者に公開して欲しい。
- 【学校】動画については、中学の教員とも話す機会があるが、その有効性は明らかだと思う。保護者向けの PR も校長ブログの活用などを視野に入れて考えていきたい。
- 【委員】残業時間の月当たり 40 時間超過が気になる。部活動の指導時間は含まれているのか。
- 【学校】入っている。正確には休日に勤務として公式戦などに付き添う場合は振休を取ってもらうので、その分はこのデータには入っていないが特殊勤務としての付き添いの時間は入っている。
- 【委員】実際はもっと長いのではないかと考える。もっと減らしていく努力をすべきではないか。そのために分布の調査をするべきではないか。極端に多い人の特徴は何なのか？
- 【学校】超過勤務時間が極端に多いのは、部活動を熱心に行っている教員である。
- 【委員】最近、部活動の時間は削っていくべきだという考え方が一般的だが、学校としてはどうしたいのか。勤務時間の削減が即ち働き方改革だと言ってよいのか。
- 【学校】実際に働き方改革により部活動をやめ、地域移行を実行している自治体も存在する。学校としては、これに諸手を挙げて賛成している訳ではない。部活動も学校教育の大事な部分であり、その中で育つ能力もある。それが日本の教育の良さでもあると思う。
- 【委員】大学の部活動では教員はほとんど関わらず生徒が自主的にトレーニングしている状況にある。高校では教員の指導が必要なのか。
- 【学校】活動には顧問の付き添いが必要である。
- 【委員】今年のアカデミー賞の候補作に小学校のドキュメンタリー映画がノミネートされた。日本の子ども達の協調性や礼儀正しさが取り上げられている。その中で、特別活動の時間は日本の教育の象徴たるものとして世界中の教育者から注目されている。部活動も同じように重要なものなのではないかと考える。大事にしてほしい。
- 【委員】読書率について、本を読まなくなっているのはしょうがないことなのか。読書習慣はどのようにつけさせるか。
- 【学校】どうしたら生徒が読書をするようになるのかを考えている段階である。教科では様々なアプローチを行っているが、学校や学年などでは取り組みには至っていない。
- 【委員】そもそもなぜ生徒たちは本を読まないのか。
- 【学校】YouTube など動画コンテンツの流行が大きいと考えられる。読書は時間がかかるものなのでそこに抵抗があるのではないかと。面白さを見出すまでに時間がかかり、それを、読書という孤独な作業で行うことに抵抗があるのではないかと。集団で読書会を開催し、話し合いの場などを設け、付加価値をつけるのも一つの策かと考えている。
- 【委員】教員が生徒に読んでほしいものはどのようなものなのか。
- 【学校】国語科が推奨している本は、社会科学から自然科学など幅広い内容のものが多く、そういうものを読めば力になるのだろうと考える。

【委員】近年、本が高価になったことや書籍が電子化していることも読書率低下の原因かもしれない。

【委員】教員が選ぶ本の難易度が高すぎるのではないかな。YouTube で育ち、絵本すら読む機会が少なかった生徒たちには難しいと思う。もっと簡単な本から推奨していくべきではないかな。

【委員】ゆっくりと自分のペースで思考する習慣が、若い段階から身につけていないことも背景として考えられる。

【会長】委員から他に質問や意見が無ければ令和 6 年度学校評価と令和 7 年度学校経営計画について承認されたものとする。続いて定時制課程の令和 6 年度の学校評価と令和 7 年度学校経営計画について、ご意見等があればお願いしたい。

【委員】定時制の学生は、昼間は働いているのか。

【学校】最近、就労している学生は少なく、アルバイトをしている生徒が多いと聞いている。

【委員】時程はどのようなものか。

【学校】基本的には 18 時から 21 時 20 分で授業は 3 コマになっている。

(2) 各学年の状況について

≪ 3 年生 ≫

【学校】完全に受験一色の時期なので、学年通信は専ら進路通信になっている。2 次試験重視の学校を受ける生徒が多いのでここから最後まで走り抜きたい。共通テストの結果で落ち込んでいる生徒もいるので面談をしながらケアをしている。

≪ 2 年生 ≫

【学校】修学旅行などの行事等で机に向かうこと以外の勉強を経験させている。11 月には 8 名の講師の方に来てもらい職業講話を行った。職業の話だけではなく、精神面の話もしてもらった。そこで学んだことをこれからの進路指導にもつなげていきたいと考えている。進路希望調査では京大 50 名、阪大 130 名、医学部医学科 11 名が志望している状況である。このまま最後まで貫かせる指導をしていきたい。

≪ 1 年生 ≫

【学校】文理選択については、文系が 80 名、理系が 241 名と理系を選択する生徒が例年より少し多かった。教科の担当教員と相談し、今後力を入れていきたい。学校生活に関しては、進路希望先を「広げる」ということをキーワードにして指導している。修学旅行も視野を広げるという意味で海外である台湾に決定した。その結果、就職先を海外として考える生徒や遠方の大学受験も視野に入れる生徒が出てくるなど、少しずつ成果が表れてきている。2 月には百人一首大会をする。音楽鑑賞会では卒業生に演奏してもらい「広い」進路実現へのきっかけづくりを行った。

【委員】2 年生も 3 年生もメンタルのケアの重要性が見受けられた。

【学校】心配していなかった生徒が、声をかけてみて初めてケアが必要であるということが発覚するケースがある。普段手のかからない生徒ほど受験に近い時期はこちらからのアプローチ

が必要であると考えている。

【委員】超過勤務時間の時間の制限があるので担任だけに任せるのは厳しいのではないか。SC の日数を増やすことも必要では。

【学校】配当されているのは、基本的に月に1回。ニーズが多く、この回数では全く足りないのが現状。日常的に関わる教員だからこそできるアプローチもあるので、SCとうまく連携を取っていききたい。

(3) スーパーサイエンスハイスクール今年度の取り組みについて

【学校】発表会とN A S Aの研修はまだ行っていないが形になってきている段階である。

SSH の中間評価では6段階評価のうち3の評価をもらっている。課題としては、「今後学校内や地域に学習内容を伝える仕組みの強化に期待する。」というコメントをもらっている。保護者だけでなく様々な外部の人に報告することの必要性を感じている。

(4) スーパーグローバルハイスクール今年度の取り組みについて

【学校】1年生はリーダーシップコースの33名でフィリピンに行く生徒とビジネスコースの10名の生徒で事前学習を行った。この春休みはアマルティア・センの『人間の安全保障』を読ませる予定である。また、フィリピンのフィールドワークは来年度23名が参加予定である。2年生は課題研究発表ではスタートアップチャレンジ甲子園で三井住友銀行賞であるベストフォーカス賞を受賞した。先日も三井住友銀行に訪問した。また吉村知事の前で発表するなど、たくさん活躍してくれた。3年生はまだ出願の段階であるが大阪大学に3名、公立大学に1名、医学部1名、探究活動の実績を使って受験する予定である。

【委員】海外研修や探究学習を経験して、海外の大学にいきいたいという生徒はいるのか。

【学校】コロナの流行で少なくともはなったが、以前はアメリカやイギリス、カナダなどに進学する生徒もいた。大学院まで出て、帰国し日本の企業で働いている生徒や、スタートアップで自分で企業を立ち上げたという生徒もいる。

(5) 進路指導関係の状況について

【学校】共通テストリサーチを終えた生徒の様子を見ると、昨年ほど大きな失敗をした様子や守りに入る様子などは見受けられない。目標通りにできた生徒は多かったのではないかと考えている。もし希望通り結果が出なかった場合、浪人するという生徒もいる。目標を変えずにがんばってほしい。

(6) その他

【委員】できる限り、教職員の業務削減、残業時間の短縮を進めてほしい。

【委員】部活動の実績が少ないのが寂しい。

【委員】これまでになかった新しい問題が複数見受けられた。個々の学校だけでなく社会の問題として取り扱っていききたい。

【委員】課題の中で最も気になるのが読書量の減少である。生徒の思考力と読書は紐づいていると考えているので、社会的な背景を考えつつも、思考力を高めるような指導を意識していったほしい。